

# 3D\_MAKER200 Win 取扱説明書

## Ver.1.3.0

2021 年 7 月  
(200-009)

## 取扱上の注意

本ソフトウェアのご使用にあたり、以下の点にご注意ください。

- インストールが終了するまで、dongleキーをパソコンに接続しないでください。
- dongleキーの再発行は致しかねます。取扱には十分にご注意願います。
- 本ソフトウェアをdongleキーなしで使用した場合、ビューワとして動作します。ビューワとなった場合、dongleキーが正しくセットされているかご確認ください。
- 本ソフトウェアは、ハンディサーチ NJJ-200(K)(JRC モビリティ(株)社製)の仕様および特性に合わせて調整しております。他のデータの処理はできません。
- 比誘電率の解析性能は、装置や測定結果に大きく左右されます。また、解析の比誘電率分解能は 0.1 となっております。解析終了後、正しくフォーカスが合うように比誘電率の値を調整してください。
- dongleキーの LED が点滅しているときはパソコンから外さないでください。  
\*Windows8.1 および 10 に接続された場合、LED 点灯後、消灯します。
- 本ソフトウェアを使用した結果の影響による損失については、一切の責任を負いかねます。

# 目次

1	はじめに .....	- 1 -
1.1	新機能のご紹介 .....	- 1 -
1.2	対象データ .....	- 1 -
1.3	動作環境 .....	- 1 -
2	インストール .....	- 2 -
2.1	セットアップ準備 .....	- 2 -
2.2	アンインストール .....	- 2 -
3	dongルキーのデバイス確認 .....	- 2 -
4	画面構成 .....	- 3 -
4.1	反射強度表示部 .....	- 4 -
4.2	深さ表示部 .....	- 4 -
5	メニュー構成 .....	- 5 -
6	3次元データの読み込み・保存 .....	- 6 -
6.1	3次元データ拡張子[r3d7]について .....	- 6 -
6.2	3D_MAKER200 And 探索データの位置関係について(V00_H00) .....	- 6 -
7	NJJ-200KEx アプリケーションでの探索方法と探索データの保存 .....	- 7 -
7.1	探索時の注意事項 .....	- 7 -
7.2	探索シートの用意 .....	- 7 -
7.3	保存データファイル .....	- 8 -
7.4	探索データ保存 .....	- 8 -
8	NJJ-200KEx アプリケーションの探索・保存データ・ファイル読み込み .....	- 10 -
8.1	断面データ読み込み .....	- 10 -
8.2	3次元データ保存・読み込み .....	- 11 -
8.3	表層の空隙(可視化)合成画像 .....	- 12 -
9	解析時の注意事項 .....	- 12 -
10	イメージの保存 .....	- 13 -
10.1	クリップボードにコピー .....	- 13 -
10.2	保存 .....	- 13 -
10.3	印刷 .....	- 14 -
11	連絡先 .....	- 15 -

## 1 はじめに

- ・本ソフトウェアは JRC モビリティ(株)社製のハンディサーチ NJJ-200(K)を使用して、NJJ-200KEx アプリケーションと 3D\_MAKER200 And アプリケーションで探査・保存した、探査データおよび拡張子「.r3d7」データを平面的に画像合成するソフトウェアです。
- ・3D\_MAKER200 Win.Ver.1.1.0.0 より NJJ-200KEx アプリケーションで探査保存したデータを平面的に画像合成する機能を追加しました。

### ※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

### 1.1 新機能のご紹介

- ・ 任意の場所でスライスした平面合成画像を表示できます。
- ・ カーソルの動きに合わせた B モード画像、A モード画像を表示できます。B モード、A モード画像はマイグレーション処理結果と切り替えができます。
- ・ コア抜きのイメージを表示できます。
- ・ ドングルキーがなくてもビューワとして動作します(比誘電率値の変更はできません)。
- ・ NJJ-200KEx アプリケーションで探査・保存したデータを平面的に画像合成する機能を追加しました。

### 1.2 対象データ

- ・ JRC モビリティ(株)社製ハンディサーチ NJJ-200 で 3D\_MAKER200 And アプリケーションにより探査保存された拡張子[.r3d7]データの 3 次元データ。

NJJ-200(3D\_MAKER200 And アプリケーション保存[.r3d7]データ)

- ・ JRC モビリティ(株)製ハンディサーチ NJJ-200(K)で NJJ-200KEx アプリケーションにより探査保存されたデータ。

NJJ-200(K)(NJJ-200KEx アプリケーション保存[KHS]データ)

### 1.3 動作環境

以下の環境で動作します。

OS      Microsoft Windows 8.1 , 10  
          Microsoft .Net4.5 以上

\*Windows Phone, Windows Mobile 系の PC タブレット(スマートフォンを含む)での動作保障は  
していません。

CPU      Dual Core 以上を推奨します。

メモリ   512MByte 以上を推奨します。

PDF ファイルを使用します。PDF ビューワをご用意ください。

## 2 インストール

### 2.1 セットアップ準備

- ①インストールが完了するまでは、dongleキーをセットしないでください。
- ②インストール Disc の[Setup.exe]を実行してください。  
インストールディスクにある「Setup.exe」を実行します。  
インストール終了後、パソコンを再起動させてください。  
以上でインストールは完了です。

### 2.2 アンインストール

Windows のコントロールパネルにある、プログラムのアンインストールから行ってください。

## 3 ドングルキーのデバイス確認

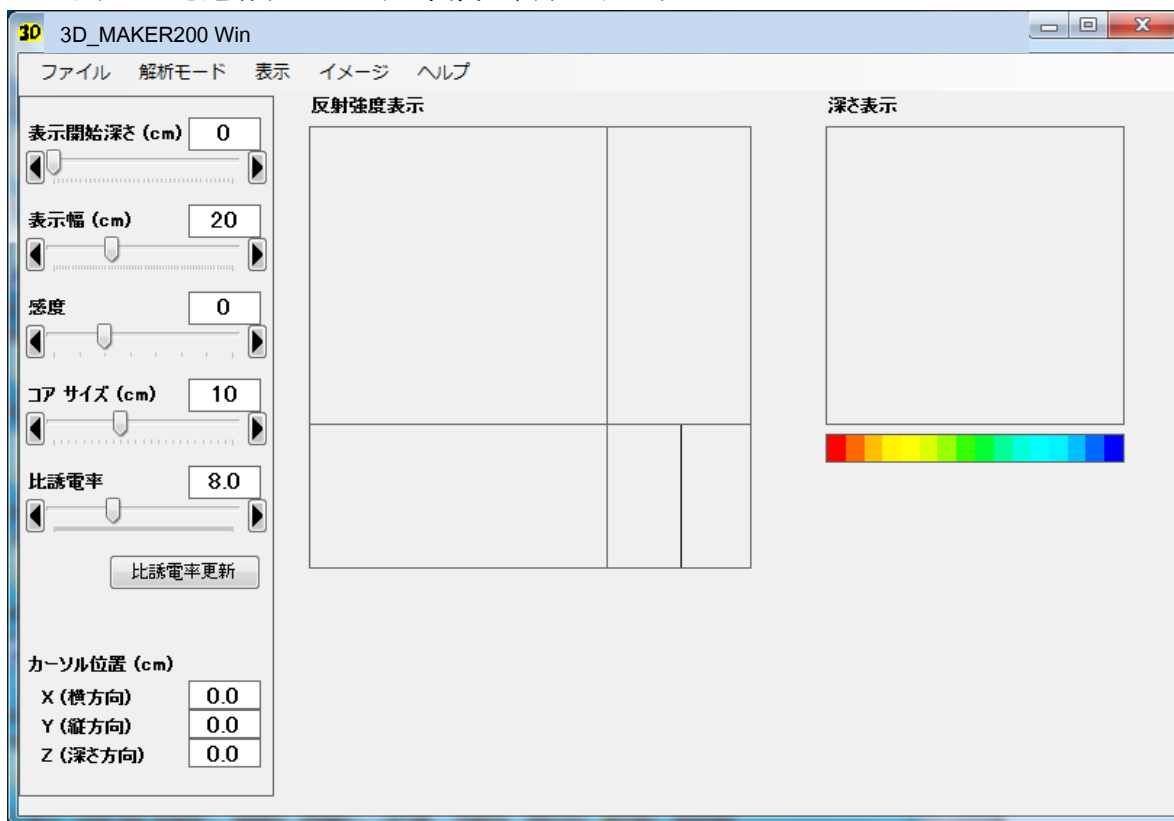
- ① ドングルキーをパソコンに接続すると、新しいデバイスとして自動的に認識されます。
- ② PC に複数の USB ポートが装備されている場合でも、個々のポートに USB キーを初めて挿入したときに自動的に認識されます。  
\*初めて USB ポートに挿入した場合、認識されるまで数秒から数十秒かかります。  
\*dongleキー本体を USB ポートに接続しますと、ストラップホルダーの LED ランプが緑色に点灯します(Windows8.1 および 10 は緑色の LED ランプ点灯後、消灯します)。  
※dongleキーをパソコンに接続、認識された状態で全ての機能が使用できるようになります。



LOCK STAR ドングルキー

## 4 画面構成

ソフトウェアを起動すると、下の画面が表示されます。



コントロール部

反射強度表示部

深さ表示部

### コントロール部

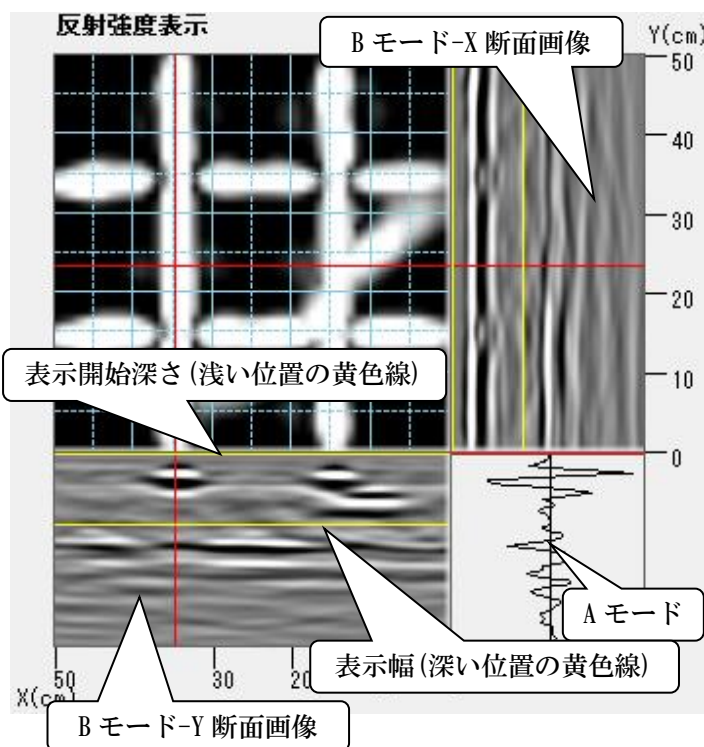
表示開始深さ	処理結果をスライスする開始深さを設定します。 ここから表示幅の間の処理結果を表示します。
表示幅	処理結果をスライスする深さの幅を設定します。 表示終了深さではありませんので注意してください。
感度	処理結果の振幅倍率を変更します。
コアサイズ	コアイメージのサイズを設定します。
比誘電率	解析時に使用する比誘電率の値を設定します。 変更中は赤字になります。 設定後、「比誘電率更新」ボタンで更新する必要があります。 ビューワでは操作できません。
カーソル位置	カーソル位置を表示します。

※スクロールバーの右側、左側をクリックしても操作できます。

※スクロールバークリック後、キーボード矢印でも操作できます。

#### 4.1 反射強度表示部

表示範囲内のデータを反射強度に応じてモノクロ表示します。



原点は右下で、横軸がX軸、縦軸がY軸となります。カーソルは赤線で、表示深さ設定は黄色線で表示します。

画像上のドラッグ操作に合わせてカーソルが移動します。断面画像はカーソル位置のデータを表示します。

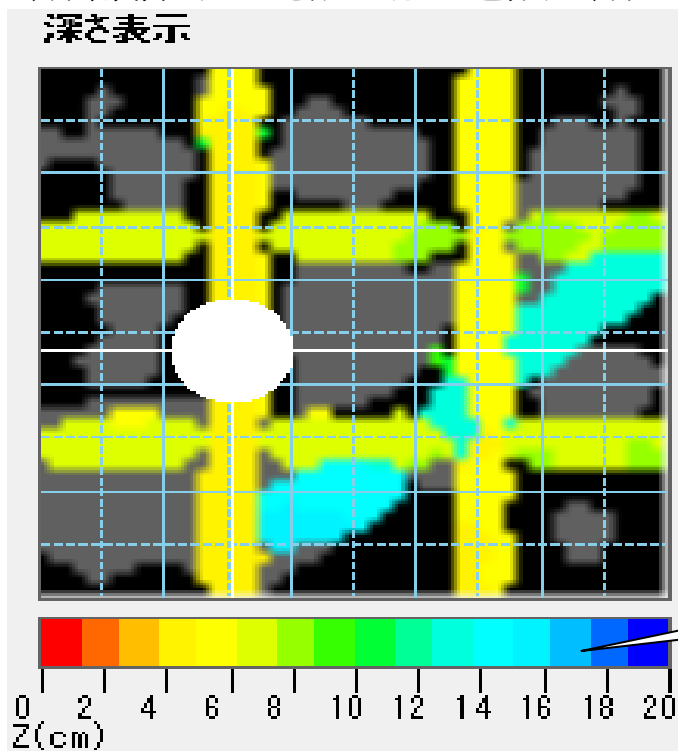
Aモードはカーソル交点部のデータとなります。

#### ※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

#### 4.2 深さ表示部

表示範囲内のデータを深さに応じて色付けし表示します。



深さと色の対応をカラーバーに表示します。コアマークを表示しているときは表示範囲外の反射をグレーで表示します。コアマークを表示していないときは表示範囲外の反射は表示しません。

深さ表示のカーソルは反射強度表示部のカーソルと連動します。深さ表示部でのカーソル操作はできません。

## 5 メニュー構成

V	メニュー構成			内容
	ファイル	断面データ読み込み		NJJ-200KEx アプリケーションで探査・保存した探査データを読み込みます。
○		3次元データ読み込み		3D_MAKER200 Win および And のソフトウェアで保存した3次元データを読み込みます。
		3次元データ保存		解析結果を[r3d7]データで保存します。
○		終了		ソフトウェアを終了します。
	解析モード	標準		標準の平面合成画像を表示します。
		表層		表層部分の空隙(空洞)の合成画像を表示します。
○	表示	Bモード マイグレーション		ON の時、B モード表示データをマイグレーション処理結果とします。 OFF の時、マイグレーション前の処理をしていないデータを表示します。
○		グリッド		ON の時、反射強度表示部、深さ表示部にグリッドを表示します。
○		コアマーク		ON の時、深さ表示部にコアマークイメージを表示します。
○		反転	なし	反転せずに表示します。
○			X 軸	横方向に反転します。
○			Y 軸	縦方向に反転します。
○		回転	なし	回転せずに表示します。
○			右 90 度	時計回りに 90 度回転します。
○			左 90 度	反時計回りに 90 度回転します。
○			180 度	180 度回転します。
○	イメージ	クリップボードに コピー		反射強度表示部および深さ表示部の平面データの表示画像をクリップボードにコピーします。
○		保存		表示している状態で JPEG に保存します。
○		印刷		報告書形式で印刷します。
○		設定		保存・印刷内容に、B モード、A モード表示の有無を設定します。
○	ヘルプ	取扱説明書		本マニュアルを表示します。
○		簡易取扱説明書		測定時の簡易取扱説明を PDF で表示します。
○		バージョン情報		本ソフトウェアのバージョンを表示します。

※「V」が○の機能はビューワでも操作できます。

※断面データ読込は、NJJ-200KEx アプリケーションにより探査・保存されたデータ専用です。

3D\_MAKER200 And アプリケーションで探査・保存されたデータは読込できません。

※反転・回転表示の両方に「なし」以外を設定した場合、回転→反転の順で処理します。

※反転・回転しても、表示右下を原点として表示します。



## 6 3次元データの読み込み・保存

### 6.1 3次元データ拡張子[r3d7]について

NJJ-200(K)を使用して 3D\_MAKER200 And アプリケーションで探査、解析、データ保存された拡張子「.r3d7」のデータを「ファイル」－「3次元データ読み込み」より読み込み、表示ができます。また、拡張子「.r3d7」のデータ形式で保存することができます。

\*スマートフォン(またはタブレット PC)とパソコンを USB で接続し、スマートフォン(またはタブレット PC)に保存されている「0000000000000000.r3d7」データをパソコンに転送してください。

※スマートフォンから直接読み込みはできませんので、パソコンにデータを転送してください。

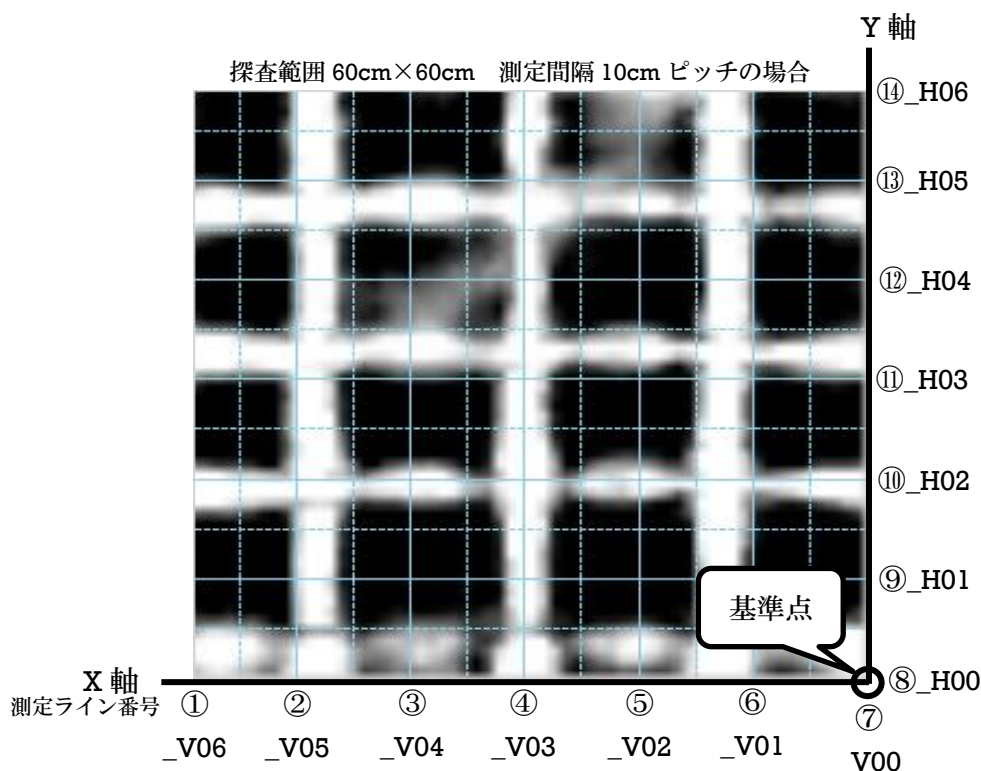
\*本ソフトウェアでデータ保存された拡張子[r3d7]データをスマートフォン(またはタブレット PC)へ転送し、3D\_MAKER200 And アプリケーションで開くことができます。転送先はスマートフォン端末の内部ストレージ直下の[NJJ200R3DN]ファイル内の[Data01～Data10]ファイル内に新規フォルダ[000～999]を作成し、その[000～999]フォルダ内に拡張子[r3d7]データを転送してください。同名のフォルダ名は作成できません。

### 6.2 3D\_MAKER200 And 探査データの位置関係について(V00\_H00)

※Vは縦方向の探査データ、Hは横方向の探査データとしています。

※測定する順番に関係なく、X 軸、Y 軸交点右下を基準点とし、各々00 から追番しています。

※V00\_H00の探査データは「断面データ読み込み」で開くことはできません。



#### ※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

データ番号		データ番号	
測定ライン番号①	20170323173804_V06.KHS	測定ライン番号⑧	20170323173804_H00.KHS
測定ライン番号②	20170323173804_V05.KHS	測定ライン番号⑨	20170323173804_H01.KHS
測定ライン番号③	20170323173804_V04.KHS	測定ライン番号⑩	20170323173804_H02.KHS
測定ライン番号④	20170323173804_V03.KHS	測定ライン番号⑪	20170323173804_H03.KHS
測定ライン番号⑤	20170323173804_V02.KHS	測定ライン番号⑫	20170323173804_H04.KHS
測定ライン番号⑥	20170323173804_V01.KHS	測定ライン番号⑬	20170323173804_H05.KHS
測定ライン番号⑦	20170323173804_V00.KHS	測定ライン番号⑭	20170323173804_H06.KHS

## 7 NJJ-200KEx アプリケーションでの探査方法と探査データの保存

### 7.1 探査時の注意事項

下記注意事項を守ってください。

- ・探査範囲の最大面積は 3 m<sup>2</sup>(長方形の場合 2.0m×1.5m)です。  
※正方形の場合、1.7m×1.7m の 2.89 m<sup>2</sup>が最大探査面積になります。
- ・測定間隔は縦方向、横方向全て同じ間隔にしてください。  
※測定間隔の設定値は 1~30cm (標準は 5cm または 10cm 間隔、表層解析は 5cm 以下が目安)。
- ・探査開始位置は正確に設定してください。
- ・探査箇所、探査・保存データ番号などの情報は、メモなどして保管してください。  
(探査箇所、1 番目の探査・保存データ番号、縦、横方向の測定本数、測定間隔)  
※3D\_MAKER200 And で探査・保存したデータ(V00\_H00)は「断面データ読み込み」で開くことはできません。

### 7.2 探査シートの用意

予め用意した探査シートを平滑な探査面上に固定します。

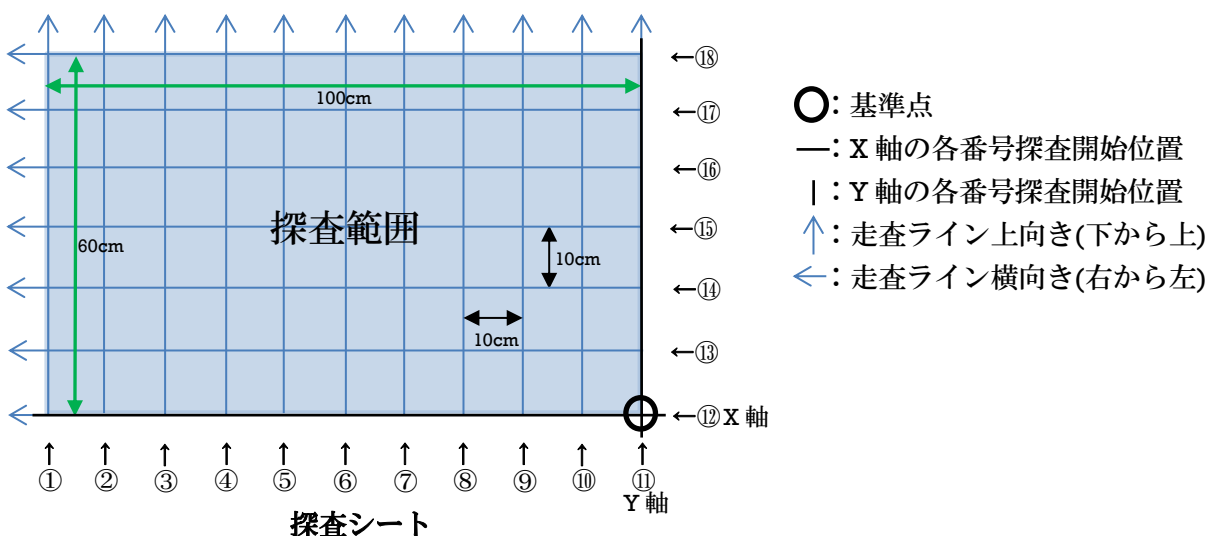
探査シートはビニールシート(絶縁物)、方眼紙(水分を吸っていない状態)などをご使用ください。

※探査面が平滑でない場合、薄いベニヤ板などを敷いて、探査シートを固定してください。

※薄いベニヤ板から探査面までの空隙(すきま)は極力狭くしてください。探査結果に影響します。

例：探査範囲が縦 60cm,横 100cm,測定間隔 10cm の探査シートの場合

(縦方向 11 ライン,横方向 7 ライン,測定間隔 10cm、合計探査ライン数：18 ライン)



走査ライン  
(装置前後面の中央に LED があります)

探査開始位置  
(左右対称で装置側面に LED があります)

### 7.3 保存データファイル

- ・保存されるデータのファイル名は、スマートフォン本体設定の「年月日時分秒」が反映されます。設定についてはスマートフォンの取扱説明書を参照してください。  
※予め、探査データの保存先フォルダ、保存データ番号を設定してください。
- ・探査データ保存時のファイル名の内容

2017 11 10 \_ 15 20 35 \_ 030 . KHS

年            月            日            時            分            秒            データ番号    拡張子

※探査データの保存先は、スマートフォン端末の[内部ストレージ]直下の[NJJ200]フォルダ内の設定している[Data1～Data10]フォルダ内に保存されます。

### 7.4 探査データ保存

- [7.2 探査シートの用意]の探査シートを使用した場合の探査・データ保存方法について
- ・予め、スマートフォン本体設定の「年月日時分秒」、保存先フォルダ、データ No を設定します。  
※スマートフォンを暫く使用していない。またはネットワークに接続されない環境にスマートフォンがある場合「年月日時分秒」の設定が変更されている場合があります。  
※基本的な装置の取扱方法は、装置の取扱説明書を参照してください。
  - ・縦方向①から⑪、横方向⑫～⑱の 18 本の探査データを連続して探査・保存します。  
基本的に、データ No は追番で連続保存してください。  
※データ保存については[7.3 保存データファイル]を参照してください。
  - ・装置を①の走査ライン(上向き)上に置き、探査開始位置を X 軸に合わせます。  
※装置の走査ラインは装置前面部中央下と後面部中央下の LED を結んだラインです。  
※装置の探査開始位置は装置側面左右の LED を結んだラインです。
  - ・装置の START ボタンまたは NJJ-200KEx アプリケーションの[スタートアイコン]を押下後、上向きに装置を走査させます。
  - ・①走査ラインの探査終了位置は、⑱ラインを超えた位置で装置の START ボタンまたは NJJ-200Ex アプリケーションの[スタートボタン]を押下して、探査を終了してください。  
※必ず探査終了ライン位置を超えてから探査を終了してください。探査距離が短い場合、ソフトで開くことができません。
  - ・①走査ラインデータ取得後、NJJ-200KEx アプリケーションの[ファイルアイコン]を押下して探査データを保存します。
  - ・同時に画面下に表示される、「保存しました(00000000\_000000\_000.KHS)」で探査保存データの確認ができます。  
※[ファイルアイコン]を長押しして「ファイルを開く」をタップすると保存データの確認をすることができます。
  - ・同様に②から⑪も装置を上向き走査して、各々の探査データを保存します。
  - ・横方向(左向き)も同様に⑫～⑱の走査ライン上の探査データを連続して各々の探査データを保存します。
  - ・⑫走査ラインと探査開始位置を Y 軸に合わせ、START ボタンまたは NJJ-200KEx アプリケーションの[スタートボタン]押下後、装置を横向き(左向き)に走査させます。
  - ・左向き方向に装置を走査させ、探査ライン①を装置の探査開始位置を超えた位置で START ボタンまたは NJJ-200KEx アプリケーションの[スタートボタン]を押下して、探査を終了し

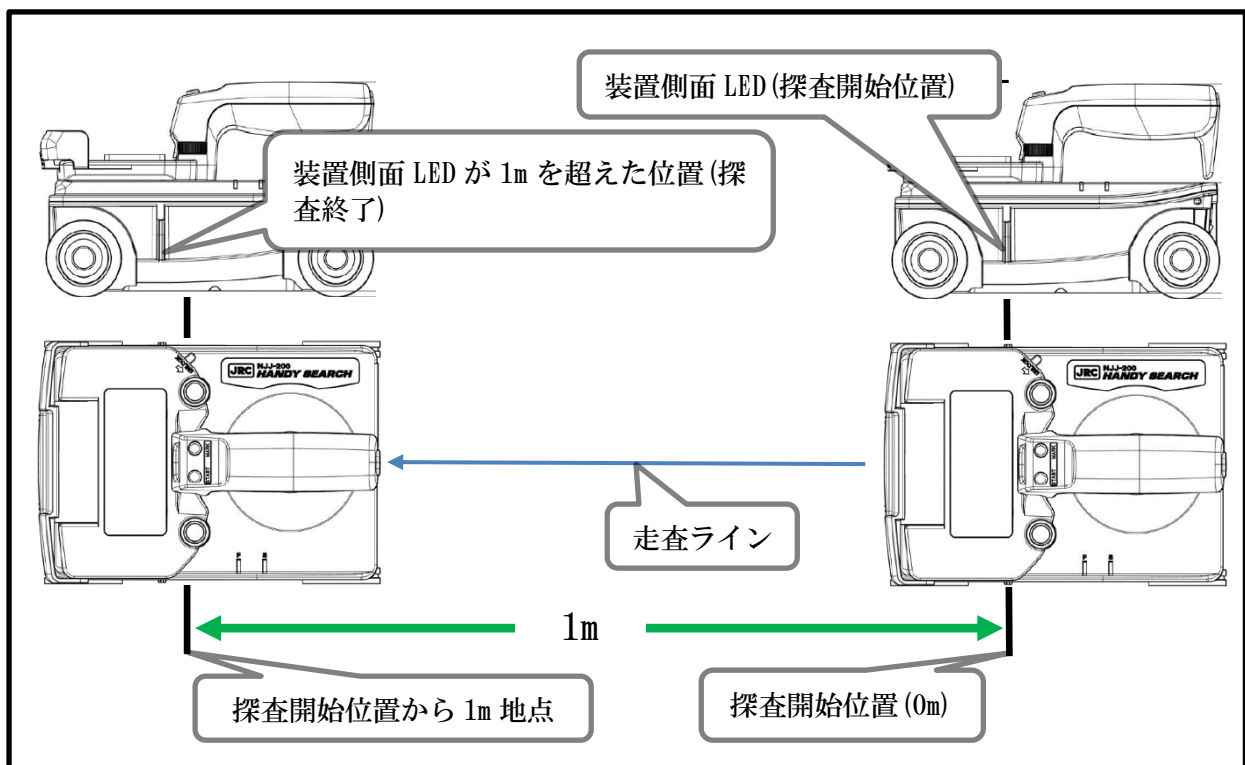
ます。

- NJJ-200KEx アプリケーションの[ファイルアイコン]押下して、探査データを保存してください。
- 合計 18 本の探査データがファイルに保存されていることを確認してください。
- 以上で探査は終了です。

※合計 18 本の探査データにおいて、誤って探査したことにより、データの探査距離が不足していたなどの間違いがあった場合、その探査ラインを間違いが無いように再度、探査・保存してください。パソコンで再度取得したデータファイル名を、誤って探査したデータファイル名に変更することで、探査データの入れ替えができます。

- 探査・保存データのパソコンへの転送、読み込みは[8. NJJ-200KEx アプリケーションの探査・保存データ・ファイル読込]を参照してください。

※3D\_MAKER200 And で探査・保存したデータは「断面データ読込み」で開くことはできません。



## 8 NJJ-200KEx アプリケーションの探査・保存データ・ファイル読込

### 8.1 断面データ読込み

※予め、パソコンの USB ポートに dongle キーを接続してパソコンに認識させます。

※スマートフォンとパソコン間での探査データの移行は、USB ケーブルを接続してください。

※3D\_MAKER200 And で探査・保存したデータは「断面データ読込み」で開くことはできません。

※探査データの保存先は、スマートフォン端末の[内部ストレージ]直下の[NJJ200]フォルダ内の保存した[Data1～Data10]フォルダ内にあります。

※スマートフォンの内部ストレージ直下の「NJJ200」フォルダ内に保存された探査データは直接読込み出来ません。パソコンのマイドキュメントなどにファイルを作成して探査データをパソコンに移行してください。また、探査データが破損する場合がありますので、その他のフォルダへ探査データのバックアップをお勧めいたします。

①メニューの「ファイル」－「断面データ読込み」をクリックします。「断面データを選択」画面を表示しますので、予めパソコンに移行した場所のファイルを選択してください。

②1 番目に探査・保存したデータ（探査範囲の左下から右上に向かって探査したデータ）を選択して「開く(O)」をクリックしてください(1 番目の探査データをマウスでダブルクリックして開くこともできます)。

③1 番目のデータ読み込み時、「解析設定」画面を表示しますので、各項目を設定してください。

例) 測定本数\_縦方向 11 本、測定本数\_横方向 7 本  
測定間隔(cm)10cm の場合

解析設定の各スクロールバーおよびキーボード矢印を使用して測定本数(縦方向,横方向)と測定間隔を設定します。

- ・測定本数(縦方向)：11
- ・測定本数(横方向)：7
- ・測定間隔(cm)：10

#### ・解析オプション

-設定済み比誘電率を使用

探査データ保存時に設定していた比誘電率を使用して解析します。

-比誘電率を解析

探査面の比誘電率が不明な場合、解析オプションの「比誘電率を解析」を選択してください。解析結果より目安としての値を算出し、合成画像を表示します。

※「比誘電率を解析」の解析性能は、アプリケーションがあくまで目安として表示した値です。装置や探査データに大きく左右されます。正確な深さが必要な場合は、正しい比誘電率となるように、スクロールバーで比誘電率の値を調整してください。

※同個所を 3D\_MAKER200 And で探査・解析された「比誘電率解析値」と異なることがあります。スクロールバーで配筋状態が最も見やすい値に調整してください。

#### ・解析モード

-標準解析モード

標準の解析結果を表示します。



-表層解析モード

タイルなどの浮き(表層の浮き)や表層の空隙(空洞)の探査結果を画像合成する機能です。

※[8.3 表層の空隙(可視化)合成画像]を参照してください。

④設定が終わりましたら、「開始」ボタンをクリックしてください。

「処理中 少々お待ちください。」の後、処理した結果の可視化画像を表示します。

⑤処理した結果の合成画像は[4. 画面構成]コントロール部の各項目をスクロールバーまたはキーボード矢印で調整して、探査判定をしてください。

- ・[表示開始深さ]
- ・[表示幅]
- ・[感度]
- ・[コアサイズ]
- ・[比誘電率]

⑥調整された合成画像はデータとして保存することができます。

[8.2 3次元データ保存・読込]を参照してください。

## 8.2 3次元データ保存・読込

### ・3次元データ保存

[8.1 断面データ読込み]の⑤で調整された合成画像をデータとして保存することができます。「ファイル」-「3次元データ保存」を選択すると、データ保存箇所の選択画面が表示されます。任意の「ファイル名」を記入して「保存(S)」をクリックしてください。

「任意のファイル名.r3d7」データとして保存します。

### ・3次元データ読込み

「ファイル」-「3次元データ読込み」を選択すると、「断面データを選択」画面が表示されます。拡張子[.r3d7]のデータを選択して「開く(O)」をクリックしてください。「任意のファイル名.r3d7」で保存したときの合成画像を表示します。

### 8.3 表層の空隙(可視化)合成画像

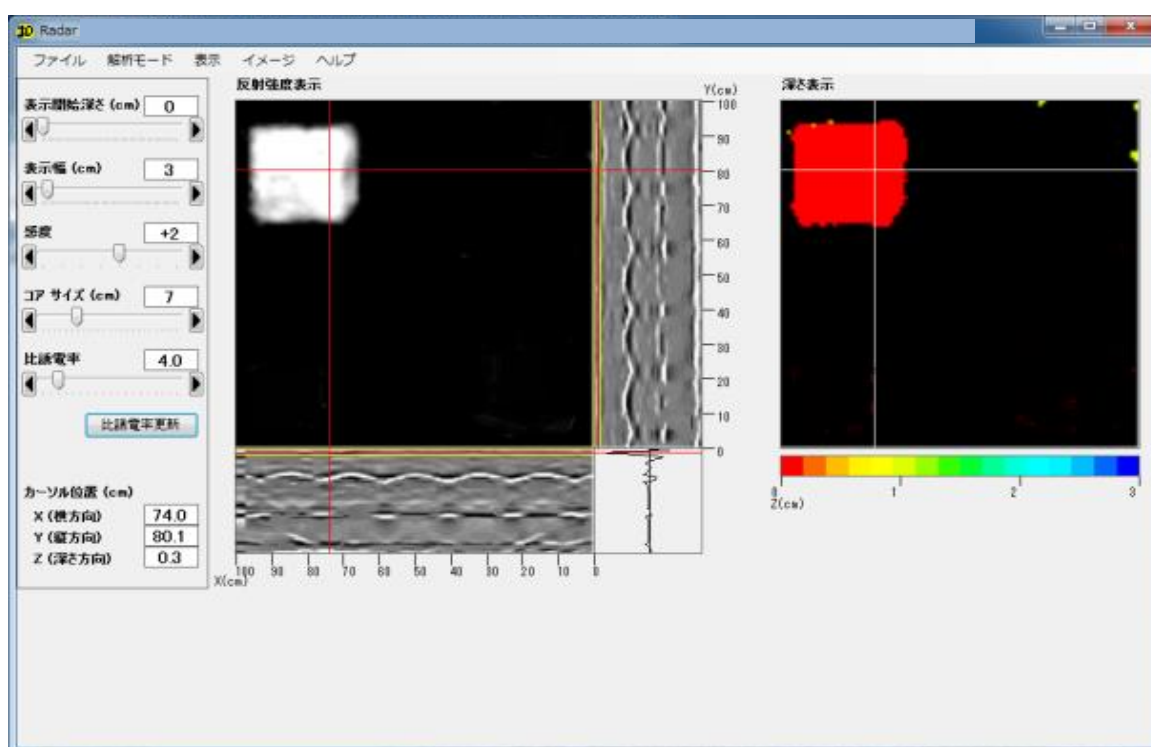
タイルなどの浮き(表層の浮き)や表層の空隙(空洞)の探查結果を画像合成する機能です。

[6.1 3次元データ拡張子[.r3d7]について]より3次元データの読み込み、または、[8.1 断面データの読み込み]から測定本数(縦方向、横方向)、測定間隔を設定して「開始」をクリックします。「標準」で処理した結果の合成画像が表示されます。「表層解析モード」も同様の機能です。

その後、タブの「解析モード」-「表層」の順に選択します。[表示開始深さ 0cm]、[表示幅 3cm]の設定画面に切り替わり表層の(可視化)合成画像を表示します。比誘電率の値を再調整して、探查判定をしてください。

※この「表層」を選択した場合、浅い部分の左に振れる反射波形(空隙、空洞など)を強調して(可視化)合成画像を表示しています。従いまして、鉄筋の反射により形成される山形画像の上側と下側のリングング(左に振れる反射波形)の値を計算に含んで結果を表示するため、結果として「表層」解析モードでは、鉄筋が浅い部分に(可視化)合成画像表示されてしまいます。

※鉄筋の配筋状態は、「標準」の解析モードをご使用ください。



試験体によるタイル剥離検出例

## 9 解析時の注意事項

### ① 解析モード

-3D\_MAKER200 And で解析された拡張子[.r3d7]データ

「標準」「表層」は 3D\_MAKER200 And で解析された[.r3d7]データを表示します。

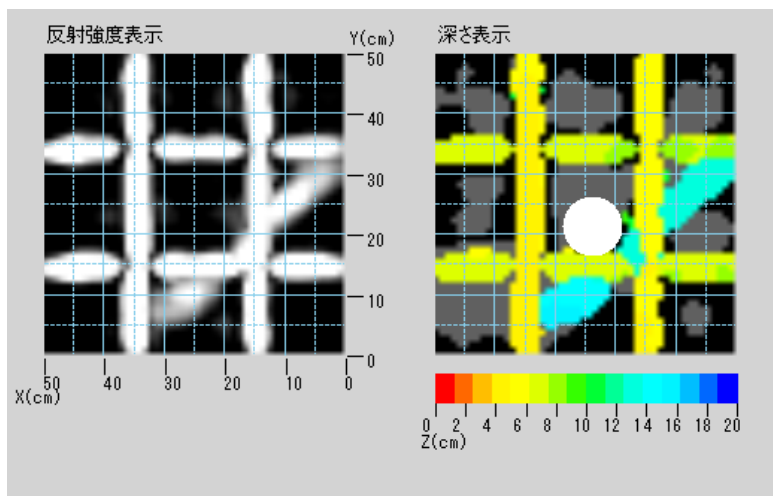
-NJJ-200Ex で探查・保存したデータの「断面データ読み込み」解析をされる場合、元データより再解析を行いますので、元データの管理をしてください。

② 3次元データ拡張子[.r3d7]は、解析モードにより解析、保存されたデータ形式を保存しております。各探查ラインの探查データは保持しておりません。探查データについては「6.3 次元データの読み込み・保存」を参照してください。

## 10 イメージの保存

### 10.1 クリップボードにコピー

「イメージ」-「クリップボードにコピー」を選択します。



「クリップボードにイメージをコピーしました。」-「OK」をクリックしてください。現在表示している「反射強度表示」「深さ表示」が JPEG でクリップボードにコピーされます。

※グリッド、コアマークを設定している場合はコピーされます。

※B モード、A モードはコピーされません。

### 10.2 保存

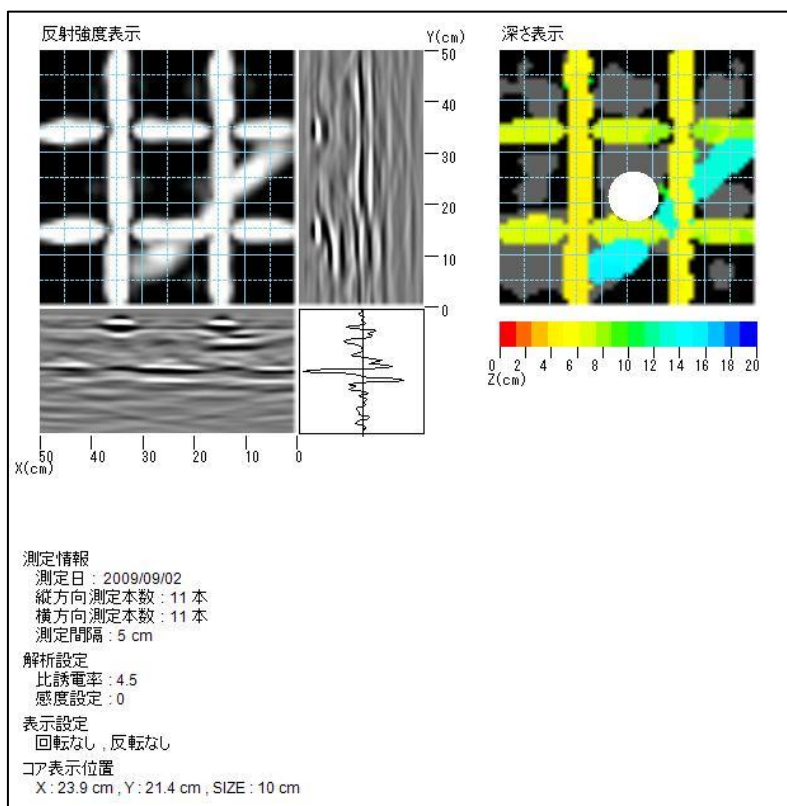
「イメージ」-「保存」を選択します。

保存先選択画面で任意の場所を選択してください。

「任意のファイル名」で「保存(S)」をクリックすると、JPEG イメージ画像を保存します。

JPEG イメージ画像は「イメージ」-「設定」を選択して[B Mode を印刷]、[A Mode を印刷]、[カーソルを印刷]チェックの有無が反映されます。

左のサンプルは、B Mode、A Mode、カーソルを印刷にチェックを入れた状態で JPEG 保存しています。



左下に探査データ情報を記載

#### 【測定情報】

- 測定日
- 縦方向測定本数
- 横方向測定本数
- 測定間隔

#### 【解析設定】

- 比誘電率
- 感度設定

#### 【表示設定】

- 表示範囲
- 回転なし
- 反転なし

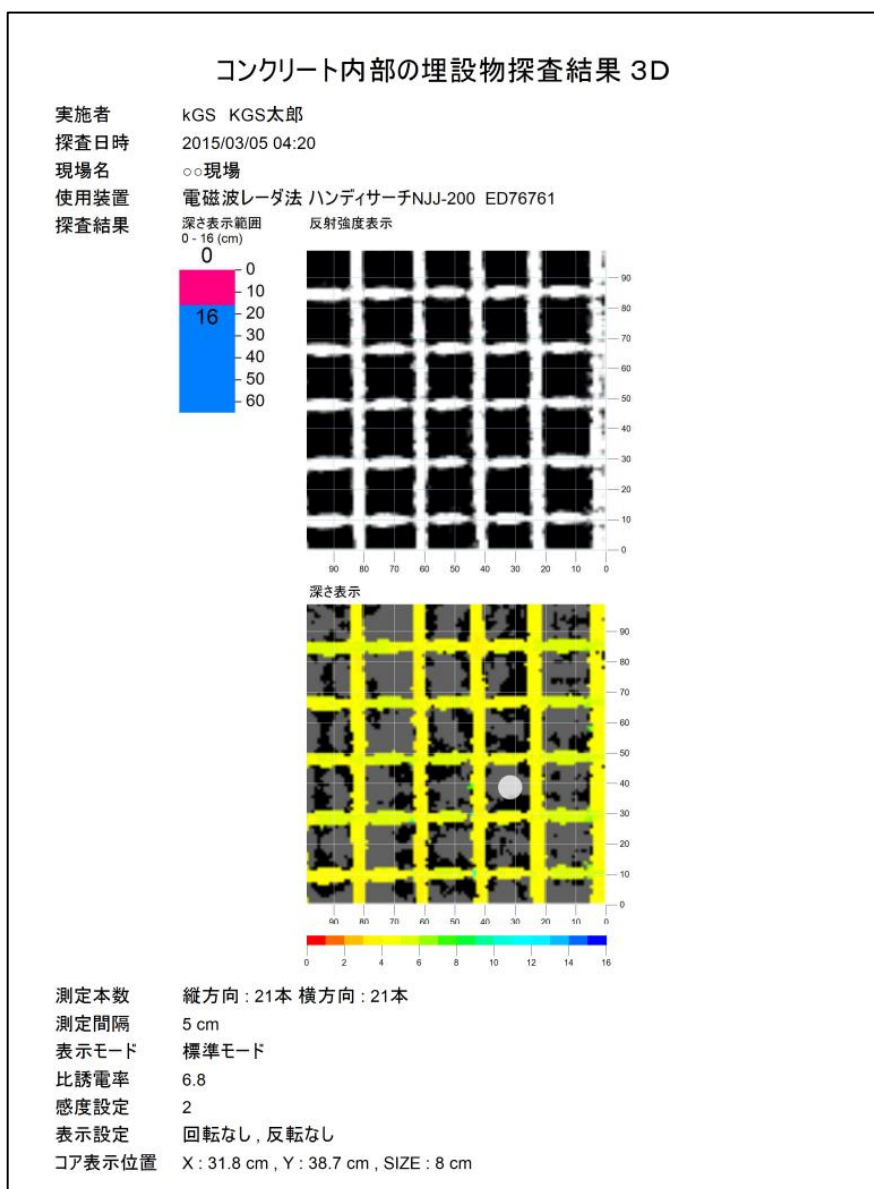
#### 【コア表示位置】

- X,Y 座標
- コア SIZE



### 10.3 印刷

印刷は、下記 報告書形式で印刷されます。



#### 【項目】

- ・実施者
- ・探査日時
- ・現場名
- ・使用装置
- ・探査結果
- ・測定本数
- ・測定間隔
- ・表示モード
- ・比誘電率
- ・感度設定
- ・表示設定
- ・コア表示位置

#### ※ご注意※

ソフトにより(可視化)表示された鉄筋の直ぐ近くにコア抜きなどされる場合、断面データで鉄筋位置を再度確認してください。鉄筋を切ってしまう恐れがあります。平面可視化画像は縦と横方向の探査データをアプリケーションにより画像合成しているため、平面可視化画像のデータが実際の鉄筋位置と数ミリ～数cmずれて表示される場合があります。

## 11 連絡先

### 株式会社 計測技術サービス

#### 東京本社

住所 〒112-0004 東京都文京区後楽 1 丁目 2 番 8 号 後楽一丁目ビル 8 階

電話 03-6379-0334

FAX 03-6379-0335

#### 大阪営業所

住所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 2 丁目-1-1 江戸堀センタービル 9 階

電話 06-6225-1088

FAX 03-6379-0335（2017 年 11 月から受付 Fax 番号を東京本社に統一しました）

メールでのお問い合わせは [tokyo\\_sales@kgs-inc.co.jp](mailto:tokyo_sales@kgs-inc.co.jp) までお願いします。

### 無断転載を禁じます。

この取扱説明書の内容は、製品の改良に伴い予告なく変更することがあります。